

船舶事故調査報告書

平成23年9月15日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲也
 委員 石川 敏行

事故種類	乗組員負傷
発生日時	平成22年6月22日 12時35分ごろ
発生場所	茨城県日立市日立港沖 日立港南防波堤灯台から真方位170° 1,900m付近 （概位 北緯36° 28.0′ 東経140° 37.9′）
事故調査の経過	平成22年6月23日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 ^{マオ シン} MAO XIN（カンボジア王国籍）、2,957トン 9092214（IMO番号）、 106.20m×16.20m×6.80m、鋼 ディーゼル機関、1,765kW、2004年3月
乗組員等に関する情報	船長（中華人民共和国籍） 男性 40歳 締結国資格受有者承認証 船長（カンボジア王国発給） 交付年月日 2010年5月28日 （2012年8月28日まで有効） 三等航海士（中華人民共和国籍） 男性 38歳 締結国資格受有者承認証 三等航海士（カンボジア王国発給） 交付年月日 2010年2月4日 （2014年12月3日まで有効） 司厨長（中華人民共和国籍） 男性 27歳
死傷者等	負傷 2人（三等航海士、司厨長）
損傷	救命艇揚降機の巻揚げ用手動ハンドルが曲損
事故の経過	本船は、船長ほか13人が乗り組み、日立港沖において救命艇の揚降訓練中、平成22年6月22日12時35分ごろ、突然、救命艇揚降機の巻揚げ用手動ハンドル（以下「巻揚げハンドル」という。）が逆転し、巻揚げハンドルが同訓練を行っていた三等航海士及び司厨長に当たり、両人が負傷した。 本船は、三等航海士が、左膝蓋骨開放骨折、司厨長が頭部挫創を負ったが、救命艇は、ほぼ上甲板の位置で落下が止まった。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 3 海象：平穏
その他の事項	救命艇揚降機は、巻揚げハンドルを巻揚げ軸から引き抜いて同ハンドル取付け基部に設けられた逆転防止用のラチェット歯車（以下「ラチェット」という。）と救命艇揚降機側に取り付けられた可動フック（以下「フック」という。）との噛合いを外し、さらに、ハンドブレーキを解放しなけれ

	<p>ば、救命艇の降下（巻揚げ軸は逆転）ができない構造となっていた。</p> <p>ハンドブレーキは、救命艇内に導かれたブレーキ解除ロープ（以下「解除ロープ」という。）からでも操作できるようになっていた。</p> <p>解除ロープは、巻揚げワイヤー用ドラムと同じ軸に取り付けられたドラムに一端が巻き付けられ、救命艇の揚降に伴って操作側のロープの長さが調整されるようになっており、また、操作側のロープは、滑車及びハンドブレーキを介して救命艇内に導かれ、同ロープを引っ張るとハンドブレーキを持ち上げてブレーキが緩むようになっていた。</p> <p>解除ロープ用の滑車等は、整備されておらず、動きが悪かった。</p> <p>巻揚げハンドルは、本事故発生直後、救命艇揚降機の巻揚げ軸から抜け落ちていた。</p> <p>本事故後に救命艇揚降機を調査した結果、解除ロープは、滑車等の動きが悪かったことから、救命艇の巻揚げに伴って緊張し、ハンドブレーキが緩む状態にあった。また、巻揚げハンドルは、巻揚げ軸へのはめ込み部にガタが生じており、巻揚げ作業を続けると徐々に抜け出す方向にずれてラチェットとフックとの噛合いが外れる状況にあった。</p>								
分析	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">乗組員等の関与</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">あり</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">船体・機関等の関与</td> <td style="padding: 5px;">あり</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">気象・海象の関与</td> <td style="padding: 5px;">なし</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">判明した事項の解析</td> <td style="padding: 5px;"> <p>本船は、日立港沖において救命艇の揚降訓練中、ハンドブレーキが緩み、また、巻揚げハンドルがずれてラチェットとフックとの噛み合いが外れたことから、巻揚げハンドルが逆転して同訓練を行っていた三等航海士及び司厨長に当たり、両人が負傷した可能性があると考えられる。</p> <p>ハンドブレーキは、解除ロープの滑車等が適正に整備されていなかったことから、巻揚げ中、解除ロープが緊張して引き揚げられ、緩んだ可能性があると考えられる。</p> <p>巻揚げハンドルは、巻揚げ軸へのはめ込み部にガタが生じていたことから、巻揚げ中に徐々に抜け出す方向にずれた可能性があると考えられる。</p> </td> </tr> </table>	乗組員等の関与	あり	船体・機関等の関与	あり	気象・海象の関与	なし	判明した事項の解析	<p>本船は、日立港沖において救命艇の揚降訓練中、ハンドブレーキが緩み、また、巻揚げハンドルがずれてラチェットとフックとの噛み合いが外れたことから、巻揚げハンドルが逆転して同訓練を行っていた三等航海士及び司厨長に当たり、両人が負傷した可能性があると考えられる。</p> <p>ハンドブレーキは、解除ロープの滑車等が適正に整備されていなかったことから、巻揚げ中、解除ロープが緊張して引き揚げられ、緩んだ可能性があると考えられる。</p> <p>巻揚げハンドルは、巻揚げ軸へのはめ込み部にガタが生じていたことから、巻揚げ中に徐々に抜け出す方向にずれた可能性があると考えられる。</p>
乗組員等の関与	あり								
船体・機関等の関与	あり								
気象・海象の関与	なし								
判明した事項の解析	<p>本船は、日立港沖において救命艇の揚降訓練中、ハンドブレーキが緩み、また、巻揚げハンドルがずれてラチェットとフックとの噛み合いが外れたことから、巻揚げハンドルが逆転して同訓練を行っていた三等航海士及び司厨長に当たり、両人が負傷した可能性があると考えられる。</p> <p>ハンドブレーキは、解除ロープの滑車等が適正に整備されていなかったことから、巻揚げ中、解除ロープが緊張して引き揚げられ、緩んだ可能性があると考えられる。</p> <p>巻揚げハンドルは、巻揚げ軸へのはめ込み部にガタが生じていたことから、巻揚げ中に徐々に抜け出す方向にずれた可能性があると考えられる。</p>								
原因	<p>本事故は、本船が日立港沖において救命艇の揚降訓練中、ハンドブレーキが緩み、また、巻揚げハンドルがずれてラチェットとフックとの噛合いが外れたため、巻揚げハンドルが逆転して同訓練を行っていた三等航海士及び司厨長に当たったことにより発生した可能性があると考えられる。</p>								
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドブレーキにストッパーピンを取り付ける。 ・解除ロープの滑車等を定期的に整備する。 ・巻揚げハンドル取り付け部にガタが生じた場合、速やかに修正を行う。 								

救命艇揚降機

